【サンプル】

開発現場の健康診断
診断報告書

株式会社ハレノヒ 御中（架空サンプル）

診断期間：2026年6月1日〜6月14日　提出日：2026年6月21日

診断は閲覧権限のみで実施し、御社の環境には変更を加えていません

診断対象

コード	システムの中身
インフラ	AWS / コスト
リリース品質	安全に出せるか
チーム体制	知識と役割
AI活用度	運用ルール

90日で安全に変更できる道筋を作る

株式会社GoodWelchi

https://goodwelchi.com/ja/checkup

総評：事業は回っているが、「変更に弱い」状態

90日で「安全に変更できる状態」への道筋が立てられます

サービスは安定して売上を生んでいます。一方で、変更のたびに不具合が起きやすく、原因調査が特定の1名に依存しています。
止血すべき箇所は明確です。まず「変更しても壊れていないことを確認できる仕組み」を整えます。

コード	インフラとクラウドコスト	リリースと品質の仕組み	チーム体制	AI活用度
システムの中身	AWS費用	安全に出せるか	知識と役割	チーム運用

- 赤：事業リスクに直結、早期の対処を推奨
- 黄：当面は回るが、放置すると赤に近づく
- 緑：良好

領域別 ①

コード（システムの中身） | ● 黄 ●

作り直しではなく、予約・決済まわりから「壊れていないこと」を確認できる状態へ

現状

- 全体としては動作しており、作り直しは不要
- 予約・決済まわりは構造が複雑で、変更時に別箇所が壊れやすい
- 前任リードエンジニア離脱後、設計意図を説明できる資料がない

推奨アクション

- 予約・決済まわりから自動テストを優先導入
- コードから仕様を逆引きし、仕様書へ反映
- 「変更しても壊れていない」ことを確認できる品質ゲートを作る

良い点：データベースの構造は比較的整理されており、土台として使える

領域別 ②

インフラとクラウドコスト | ● 黄

AWS月額約58万円。大きな構成問題はないが、実測ベースで削減余地あり

削減余地

月額 約18万円

請求明細と稼働状況から算出した
実測ベースの数値です

削減候補（実測ベース）

開発用環境の24時間稼働	約6万円/月
実利用に対して過剰なDBプラン	約7万円/月
旧バックアップ・未使用リソースの放置	約5万円/月

削減の実行は、動作確認とあわせて段階的に行うことを推奨します。

領域別 ③

リリースと品質の仕組み｜● 赤

不具合の多発は個々のミスではなく、間違いを検知する仕組みがない構造に起因

1 自動テストがほぼ存在しない

変更の影響を人の目視だけで
確認している

2 リリース作業が手順書のない手作業

担当者の記憶に依存し、再現性が低い

3 「直前の状態に戻す」手順が未整備

問題発生時の復旧が長引く可能性

推奨：リリース手順の文書化と自動化 → 主要機能への自動テスト導入

90日以内に、変更時に自動で検査が走る仕組みをつくる

領域別 ④

チーム体制 | ● 赤

知識が一箇所に集中している構造を、文書化とレビューで組織の資産に変える

現状

- 予約・決済まわりの知識が委託先A社の特定の1名に集中
- 直近6ヶ月の変更履歴の約7割、障害対応の初動のほぼ全件が同じ担当へ
- 発注側に、委託成果物を技術的に確認できる役割が不在

推奨

- 主要機能の仕様の文書化を、委託契約の成果物に含める
- レビュー観点と受け入れ条件を定義し、発注側でも確認可能にする
- 知識を「人」ではなく、仕様・テスト・運用手順に残す

これは担当者個人の問題ではなく、知識が文書化されず一箇所に集中している「構造」の問題です。必要なのは交代ではなく、知識を組織の資産に変えることです。

領域別 ⑤

AI活用度 | ● 黄

AIは「使う」だけではなく、ルールと品質チェックをセットで運用する

現状：個人がAIを補助的に使っている形跡はあるが、チームとしてのルール・品質チェックの仕組みは未整備。

1 ルール整備

設計方針・命名・テスト方針・レビュー観点を明文化

2 テスト作成

AIで予約・決済まわりの自動テスト作成負荷を下げる

3 文書化

テストと仕様書を同期し、知識をチームに残す

4 新機能へ適用

品質ゲートが整った後に新機能開発へ広げる

伸びしろ：優先度が高い「自動テストの整備」「仕様の文書化」は、AIの活用で作業負荷を大きく下げられる領域。

リスク一覧

放置した場合に起きうること

「実測」と「試算」を分け、意思決定の物差しとして整理します

リスク	起きうること	影響の目安	種別
クラウド費用の過剰支出	現状のまま継続	月 約18万円・年 約216万円	実測
障害対応への工数流出	不具合調査・対応が毎月発生	月 約35時間 ≒ 委託単価換算で月 約30万円	実測
予約機能の長時間停止	復旧手順が未整備のため停止が長引く可能性	1日停止した場合、約47万円/日の売上相当 前提: MRR1,400万円÷30日	試算
委託先の担当1名の離脱	知識の引き継ぎ先がない	キャッチアップ3〜4ヶ月、委託費換算540〜720万円相当 前提: 現行委託費月180万円×期間	試算

注：「試算」は前提を置いた概算であり、将来を予測・保証するものではありません。意思決定の物差しとしてご利用ください。

技術付録

技術詳細レポート（抜粋・見本）

※実際の診断では、技術詳細レポートは経営者向け報告書とは別冊で納品されます。本ページはその抜粋見本です。

#	領域	指摘	優先度
05	フロントエンド	予約確定フローに、通信エラー時の失敗表示・再試行の分岐が見当たらない〔確認済み・コード〕— 成功に見えたまま予約が入らないケースが起きうる	高
12	バックエンド	決済APIに重複実行を防ぐ仕組みがない〔確認済み・コード〕＋ 決済ログに二重課金の実例〔実測〕（下で詳述）	高
21	インフラ	本番データベースのバックアップからの復元手順が、一度も検証されていない〔未検証〕— 障害時、復旧が想定より長引くおそれ	高

指摘 #12｜予約確定処理の二重実行（優先度: 高）
事象：確定操作の通信リトライ等により、同一予約の決済が二重に実行されうる
根拠（確認済み）：フロント側には確定ボタンの連打防止があるが、通信リトライは防げない。決済API側に重複実行を防ぐ仕組み（冪等キー：同じ操作を二回受け取っても一回だけ実行する仕組み）がない。5月の決済ログに、同一予約IDの二重課金が2件。
影響：顧客への二重請求（月2件ペース、返金対応の工数を含む）と、信頼の毀損
推奨対応：決済APIに冪等キーを導入。対応規模の目安：2〜3人日
完了条件：「同一リクエストを連続送信しても、決済記録が1件のみになる」自動テストが追加され、通ること
実際の技術詳細レポートには、この形式の指摘が領域別に一覧で収録されます（本サンプルの想定では31件）。

改善計画

90日改善ロードマップ

止血 → 安全に変更できる状態 → 仕組みの定着へ

Month 1

止血と見える化

- リリース手順の文書化
  〔外部支援〕
- 「直前に戻す」手順の整備
  〔委託先/外部支援〕
- クラウド費用の削減実行（約18万円/月）
  〔委託先/外部支援〕
- 予約・決済の仕様文書化に着手
  〔外部支援〕

Month 2

安全に変更できる状態へ

- 主要機能への自動テスト導入（AI活用）
  〔委託先/外部支援〕
- 変更時に自動で検査が走る仕組み
  〔外部支援〕
- 委託先との受け入れ条件・レビュー基準の合意
  〔社内/委託先/外部支援〕

Month 3

仕組みの定着

- 知識集中の解消（文書化完了・レビュー運用）
  〔社内/委託先〕
- 経営向け月次レポートの型
  〔外部支援〕
- AI活用ルールのチーム展開
  〔社内/外部支援〕

本ロードマップは、弊社に依頼せず、社内・現委託先のみで実行いただくことも可能です。

ご提案

次の一歩

本報告書を起点に、改善の進め方を選べます

1 社内と現委託先で改善を進める

本報告書をもとに、優先度の高い改善から着手

2 他社・採用候補者への説明資料に使う

現状課題と改善方針を共有し、比較検討の材料に

3 GoodWelchiの継続支援で伴走する

立て直し・引き継ぎ支援として、90日改善を伴走

診断後3ヶ月以内のご契約で、診断費用は継続支援の費用に全額充当します。

株式会社GoodWelchi ｜ https://goodwelchi.com/ja/checkup